

鶴岡南・北高統合し、中高一貫校 学校の選択肢を増やし 早くから「競争」「挫折感」

県立高校再編 未就学児保護者説明会

県教育委員会は19日、田川地区の県立高校再編整備計画案について、未就学児の保護者を対象とした説明会を出羽庄内国際村で開き、約30人が参加。県高校教育課の須貝英彦高校改革推進室長が計画案を説明し、保護者の質問に答へました。

※文責・編集部（）内は編集部のコメント

問 「他県の私立の中高一貫校は、受験に強い高校ではない。鶴岡南校を中高一貫校にする」と大学受験が担保されない」

答 「中高一貫校は難関大学を目指してひたすら勉強する学校ではない。しかし他県の事例では進路目標を比較的多く達成している」

問 「高校で7クラスはかなり広い門だ。鶴岡南は進学校であり学力のレベルが下がる」

答 「いまの鶴岡南は5学級なので、いま鶴岡南に届かない子どもも入れる。平均点が下がる面は否定できない。生徒数に応じた教員数は法律で決まっており、全国的には進学校は6〜8学級だ」
（いまの鶴岡南高の学力水準は下がる？）

問 「中学校が1つ増えるので、既存の中学校は生徒が減り、部活の維持も難しくなる」

答 「中高一貫校の中学生が80人とすると、この地域全体で4％位なので、25人に一人がこの中学校に入る。それを大きいことと考えるかどうかだ」
（将来の少子化で10％にもなったら大問題）

問 「企業誘致のための中高一貫校なら、企業の役員の子どもの願書の段階で合否が決まる懸念がある」

答 「企業誘致のための中高一貫校ではない。ただ中高一貫校の選択肢があることが地域の魅力で人が増えるのが良い。親の職業で合否が決まることは絶対ない」
（学校の選択肢を増やすと人が増えるのか）

問 「山添高校は発達障害のある子どもの教育が充実している。廃校は残念だ。受け入れ先はあるのか」

答 「文科省の指定もあり、山添高校は発達障害の教育は充実している。庄内総合高校でできるよう考えていかねければならない。少子化なので高校再編にご理解を」
（特別支援教育は不安増大）

【絵を描く】 庄内柿

加藤貞雄（山王町／上平形出身）

恋しい柿の季節がやってくる。それまで樹を覆っていた葉が朽葉色に変わっていくにつれて赤い柿の実が青空を背景に現れてくる。

庄内柿、きざわし、伝九郎柿、ハチヤ柿などの名前が記憶の底から蘇ってくる。

胡麻を含んでいるよな「きざわし」は、サキサキとした食感で歯ざわりは硬いが、渋みがなくてすぐに食べられる。子どもの頃は

おやつ代わりによく食べた。もつちりとしてとろけるようなハチヤ柿もあった。

「ひらたねなし」と呼ばれた庄内柿は不思議にも種がない。湯でさわして渋を抜く。そのうまさと言ったらない。柿特有の美味しさで、どんな甘い菓子も比べものにならない。それに滋養に富んでいるので「医者いらす」とも呼ばれた。

湯で「さわす」、この「さわす」という語感が優しく響く。辞書には見慣れない漢字で「酥す」とある

高い柿の木の実は、

長い竹の先を尖らせて二股にして、枝を挟んで柿を一つずつひねって掬いだのを思い出す。庄内柿の原木があるというので行って見た。

鶴岡市の島屋町の、とある小路の奥にその木はあった。立て札には「鶴岡市天然記念物 庄内柿の原木」とあった。この庄内柿は酒井調良という人の手で改良が加えられ明治の末期に誕生したと伝えられている。

冬、雪の上に立ち並ぶ柿の木畑、その彼方に白く輝く月山、この風景が大好きで、仲間と一緒に赤川の土手の上から描いた。

しかし、あっちこちで目にする、取り残された赤い柿の実が雪を被っている姿はわびしい。収穫する人がいないのだろうか。

時折見る家の軒下に吊してある赤銅色の干し柿もまた堪えられない美味しさだ。冬、炬燵に入りながらのオヤツにはもってこいだ。柿は私たちの生活を豊かに、味のあるものになっている。



平成30年8月5日～6日の大雨による被害状況（平成30年8月27日）

(1) 人的被害 なし
 (2) 建物浸水被害 58件（床上浸水2件・床下浸水4）
 (3) 道路・河川施設被害 被害件数68件（8月24日現在）

被害分類	件数	区域	件数	被害状況
道路（市管理）	59件	鶴岡	8件	道路法面欠損・崩落・洗掘・側溝閉塞など
		藤島	16件	道路法面崩落・洗掘・側溝閉塞など
		羽黒	12件	路盤流出・路肩洗掘・水路閉塞など
		榑引	1件	道路法面崩落
		朝日	8件	道路陥没・路肩損壊・洗掘・土砂流出など
		温海	14件	橋脚破損・土砂流入・水路閉塞など
河川（市管理）	9件	鶴岡	3件	支障物による排水障害・水路欠損
		藤島	0件	
		羽黒	1件	法面崩落など
		榑引	0件	
		朝日	2件	法面崩落・擁壁破損
		温海	3件	護岸欠損など

【県管理施設】被害件数14件（8月24日現在）

被害分類	件数	区域	施設名
道路	4件	羽黒①・朝日①・温海	鶴岡羽黒線・鶴岡村上線・国道345号・温海川木野俣大岩川線
河川	9件	朝日①・温海⑧	青竜川・庄内小国川・鼠ヶ関川・温海川・広谷川・深沢川
港湾	1件	温海①	鼠ヶ関港

(4) 農地農業用施設の状況（8月24日現在）(5) 林道の状況（8月24日現在）

本所管内	件数	本所管内	件数
藤島庁舎管内	5件	藤島庁舎管内	0件
羽黒庁舎管内	21件	羽黒庁舎管内	0件
榑引庁舎管内	4件	榑引庁舎管内	5件
朝日庁舎管内	15件	朝日庁舎管内	3件
温海庁舎管内	14件	温海庁舎管内	6件
合計	63件	合計	24件

(6) 農業被害の状況（8月24日現在）

分類	報告件数	被害面積	摘要
農作物	28件	166.0ha	水稻・大豆・そば・枝豆など

(7) 河川災害 2件（越水）

河川名	場所	被害状況	摘要
京田川	鷺畑地内	越水	越水による浸水被害はなし
庄内小国川	大岩川地内	左岸より越水	越水による浸水被害はなし

■避難状況（避難発令解除・避難所8箇所閉鎖 8/6 13:30）

対象区域	対象世帯数	対象人数	避難世帯数	避難者数
藤島	1,041世帯	3,223人	37世帯	64人
羽黒	25世帯	65人	20世帯	37人
合計	1,066世帯	3,288人	57世帯	101人

※その他 自主避難者5世帯6名

平成30年8月16日の大雨による被害状況（平成30年8月27日）

(1) 人的被害 なし
 (2) 建物浸水被害 4件（床下浸水）
 (3) 道路・河川施設被害 被害件数42件（8月24日現在）

被害分類	件数	区域	被害状況	
道路（市管理）	38件	鶴岡	20件	道路法面欠損・崩落・洗掘・土砂流入など
		藤島	0件	
		羽黒	3件	道路法面崩落・舗装欠損・倒木
		榑引	4件	路肩崩落など
		朝日	3件	道路洗掘・土砂流入など
		温海	8件	道路法面崩落・土砂流入・倒木など
河川（市管理）	4件	鶴岡	2件	支障物による排水障害など
		藤島	0件	
		羽黒	0件	
		榑引	0件	
		朝日	1件	河川土手の洗掘
		温海	1件	護岸欠損など

(4) 農地農業用施設の状況（8月24日現在）(5) 林道の状況（8月24日現在）

本所管内	件数	本所管内	件数
藤島庁舎管内	4件	藤島庁舎管内	0件
羽黒庁舎管内	21件	羽黒庁舎管内	0件
榑引庁舎管内	4件	榑引庁舎管内	5件
朝日庁舎管内	15件	朝日庁舎管内	3件
温海庁舎管内	14件	温海庁舎管内	6件
合計	63件	合計	24件

(6) 農業被害の状況（8月24日現在）

分類	報告件数	被害面積	摘要
農作物	12件	15.6ha	水稻・大豆・枝豆・キャベツ

■避難状況（避難発令解除・避難所8箇所閉鎖 8/6 13:30）
 ○避難準備・高齢者等避難開始 8/16 12:00 千原地区・関根新田・三和地区

対象区域	対象世帯数	対象人数	避難世帯数	避難者数
藤島	54世帯	187人	0世帯	0人

※その他 自主避難者12世帯21名

日本人と憲法
NHK世論調査から考える⑦
憲法を知り改正を止めさせよう

1 あらためて憲法を学ぶ 青山崇

最後の設問は、いま どの程度知っているかの憲法の理念・内容である。よく知っているか

戦争

古来戦中幾人回
死去了知万事灰
自古人生誰罔死
何当平和総争来

古来 戦史 幾人 回る
死去了らば了知す万事 灰に
古 自り人生 誰か死罔からん
何か当に平和 総の争いへ来たるを

城貞（藤の花）

昔から戦争に行つて、帰ってきた人は、どれほどいただろう
死んでしまえばすべて、灰に帰するとは、誰もわかつていないのだ
人生として生きて、昔から死をまぬかれた者は、いないのだ
いつた、いつになつたら争いのしている所に、平和が来るのだろうか

ている」状況にしておけないのである。「よく知っている」を100%にしなければならぬ。現政府が憲法教育・同学習などを全くしないのが最大の理由であるが、憲法第12条が掲げる「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によつて、これを保持しなければならぬ。精神にもついで私たちが国民が、子どもから高齢者まで、憲法をよく知る努力をしようではないか。沖繩慰霊の日に読んだ沖繩の小学生の詩である。「へいわつてなかな。ぼくは、かんがえたよ。おともだちとなかよし。かぞくが、げんき。えがおであそぶ。ねこがわらう。おながいっばい」、そうです。こういう「平凡」な生活をつくるために憲法があるのである。（終）



責任は誰がとる

此のところの紙面を賑わしているのは、障害者の雇用の問題である。法律に基盤があり、%で雇用を確保しなければならぬ事になっているのだ。まだまだ十分には程遠いが、バリアフリーと言う言葉が常識化し前進しているものの、これはそれ以前の問題である。▲ことは、健康者が彼らを職場から締め出していたことである。多くの彼らが、公務員と呼ばれる安定した職業につけなかったのだ。数が充足していて彼らの横の組織があれば、社会が変わる可能性だつてあつたらう。▲担当する省庁があつて%を点検していたんだ。だから糖尿病の人まで探して数を作っていたんだ。悪いことしていったんだネー。どこに・どうお詫びす

る？。誰が責任取るや。省庁を並べればあんなにあるから、これは最高責任者の総理だぜ。▲防衛省の文書隠しも、森友の文書改ざんも、責任を認めながらも誰も責任を執らなかつた。これとは逆に、前川前事務次官は、直接自分が悪いことをしたのではなくとも、組織の責任を執つて辞めたんだ。今回は総理だぜ・ネー。▲これは、山形県も同じことをしていたと報道されたが、俺は昭和30年代前半でこういうことを知っていたから、そんなに古くからあつた制度なんだろうか。当時の藤島町では2人とか3人とか言つて、庶務担当が数を掴んでいたものだった。▲あの人は・と聞けば、あの人手帳たないでねなや・という人も。障害があつても、認めたくない気丈な人がいたようだった。今だっているかも。（石川）